



初任者研修 地区別で行う研修は、小学校、中学校、市立特別支援学校、県立特別支援学校 栄養・養護教諭も含めた初任者を対象にした研修です。それぞれの校種や立場を生かし、生徒指導や児童生徒理解等に関する講義や演習・実習を通して、新たな気付きや学びを深めることができました。

【研修の内容とねらい】

- 講義・実習「教育相談①（カウンセリングマインド等）」
生徒指導における教育相談の意義や役割を理解する
カウンセリングマインドに基づいた生徒指導の基本的な技能を習得する
- 講義・演習「生徒指導（いじめ、問題行動への対応）」
いじめ等の問題行動への基本的な対応の仕方を理解する



「教育相談①(カウンセリングマインド等)」 【小学校・中学校】

○研修に向けて

- ▶子どもから相談を受け、うまく対応できているか不安に思うことがあります。子どもからの相談や、助けを求められた時に、「この先生は信頼できる」と思われるような言葉かけや、関わり方を学びたいです。
- ▶学校で子ども達が楽しく過ごせるために、どのように子ども達に向き合えばよいのかについて学びたいです。また、保護者とどのように関わり、同じ方向を向いて、一人一人の子ども達に合った指導や手立てがあるのかについて学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶ロールプレイの実習を通して、話し手、聞き手の気持ちをより理解することができました。また、今の自分の対応を振り返ることもできました。色々な対応に追われることもありますが、子どもと向き合い、話をする時間を大切にしたいです。
- ▶今日の講義と実習を通して、教育相談が生徒指導の一環として重要な役割を担うことが分かりました。教育相談では、児童生徒理解が欠かせないことを改めて認識できました。児童生徒理解に向けて、子どもとの関わりを増やし、一人一人の子どもに適した指導や支援ができるようになりたいです。また、子どもと教員のよりよい関係づくりに努め、子ども自身が、自己解決できるような力を引き出せるようこれからも関わっていきたいです。

【市立、県立特別支援学校】

○研修に向けて

- ▶ 特別支援コーディネーターや、関係機関との連携の図り方や、保護者との療育相談や懇談会での関わり方について学びたいです。
- ▶ 子どもがどのようなことを考えているのか、感じているのか等、読み取ることが難しく対応に不安を感じることがあります。様々な障害特性に応じたカウンセリングマインドによる気持ちの受け止め方、感じ方について学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶ カウンセリングマインドには「受容」「共感」「自己一致」の基本姿勢が大切だということを学びました。これまでの指導を振り返ると共感しながら話を聞く意識が薄かったように思いました。今後は、相手に寄り添いながら話を聞くことで、児童生徒理解に努めていきたいです。
- ▶ 発語がない子どもに対して、表情等により注目したいと思いました。また、子どもの行動の背景にまで目を向けられる教員になりたいと思いました。聞く姿勢もこちらが配慮することで、相手に安心感を与えられるということが分かりました。明日から、生かしていきたいです。

【栄養・養護教諭】

○研修に向けて

- ▶ 落ち着かない、イライラしている生徒の背景をどう理解し、どのように対応していけばよいのかについて学びたいです。
- ▶ 養護教諭として、子どもから話を聞く機会が多くあります。保健室登校の生徒への対応の経験も浅いことから、上手に聞き取れているのかと悩むこともあります。子どもとの関わりが密にできる養護教諭だからこそ、専門性を生かすことができると思います。今の自分を振り返り、どのようなスキルが必要なのかについて学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶ 保健室での健康相談や、日々子どもとの関わりの中でカウンセリングマインドを生かしたいと感じました。具体的には、傾聴の5技法を使い、子どもの心に寄り添い、その子らしい生活を送れるようにサポートしていきたいです。教員に対して不信感を抱いている子どもに対しても、カウンセリングマインドを生かした関わりが有効であると感じました。
- ▶ カウンセリングマインドを体験する中で、「繰り返し」、「明確化」の技法が難しかったです。リフレーミングの言葉を掲示物として作成するなどして、自分の考え方を前向きに捉え、ポジティブな思考へと転換できるような取組をしていきたいです。



子どもを多角的・多面的に「みる」ためには、「見る」「観る」「視る」「看る」「診る」の意識が必要であることを学びました。



実習を通して、聞き手、話し手の立場から、非言語コミュニケーションやカウンセリングマインドを生かした関わり方について学びました。

「生徒指導(いじめ、問題行動への対応)」

【小学校・中学校】

○研修に向けて

- ▶大学の授業や教員採用試験の勉強等で、いじめの未然防止や早期対応については、なんとなく理解していました。自分が、問題行動への対応や指導をすれば不安があります。
- ▶問題行動に対して、どう指導していいのか戸惑うことが多くあります。問題行動が生じたとき、どのような声掛けをすれば、子どもが自分の行動を省みることができるのかについて、難しさを感じています。

○研修の振り返り

- ▶演習では、小学校の先生方との交流を通して、配慮が必要な子どもへの生徒指導について、同じような悩みを共有することができました。生徒指導について、頭で理解できていても、実際の対応に反映できるかという圧倒的に経験が足りないと感じていました。今日の研修で行った校種を越えた事例検討は、大変有意義でした。自分が指導するときには、一人で抱え込まず、学年や管理職の先生方に相談することや、「報告、連絡、相談」を常に心掛けたいです。
- ▶同期の先生とたくさん意見交流し、付箋やホワイトボードにまとめる活動をする中で、自分の考えを深めることができました。いじめや問題行動への対応では、児童生徒のことを理解しようとする姿勢を大切にすることや、他の教職員、保護者の方との情報共有・連携を大切にしていきたいです。一人で抱え込まずに組織的に対応していきたいと思います。
- ▶講義や同じ班の先生方との事例検討を通して、手法というよりも、生徒一人ひとりに寄り添うことが大切であると感じました。また、グループ協議を通して、自分が思いつかなかったような解決へと導く手立てを知ることができ、大変勉強になりました。

【市立、県立特別支援学校】

○研修に向けて

- ▶特別支援学校に勤め、子どもの発達段階や特性に応じた指導への難しさを感じています。他の校種の先生方の対応を聞いたり、交流したりすることで、自分の知識を広げたいです。また、特別支援学校において、問題行動の捉えを障害特性とするのか問題行動とするのか、その判断や事後指導の在り方について学びたいです。
- ▶最近、特別支援学校でいじめがあることを知りました。いじめの対応については、小・中学校と共通することと、特別支援学校ならではのことがあると考えます。研修を通して、障害のある子どもへのいじめ対応について学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶児童生徒理解は、日頃の声掛けや観察などが重要であると感じました。普段から、子どものことをよく知ろうとすることが必要だと感じました。中学校の先生方の話を聞いていると、アプローチの違いはありますが、保護者から子どもの様子を聞くことや、他の先生から子どものことを聞くという姿勢は、校種を越えて共通していると思いました。
- ▶今回、いじめは、人権侵害であり、人として決して許される行為ではないことを学びました。特別支援学校でも、起こりうるものだとして改めて確認できました。まずは、子どもが話しやすい雰囲気をつくりたいと考えました。教員の思い込みや一面的な見方ではなく、子どもの気持ちを受け止めることを大切にしたいです。

【栄養・養護教諭】

○研修に向けて

- ▶不登校傾向や保健室登校の子どもと関わる機会がとて多くなっています。また、学級を持たない養護教諭だからこそ気付ける問題や気になることがあると思います。その時、適切な対応ができるよう学びたいです。
- ▶筋の通った指導がしたいと思います。適切な指導の流れが、よく分かっていないことがあります。子どもの思いや本音を引き出せるようになりたいです。

○研修の振り返り

- ▶児童生徒理解は、日頃の子どもの関係づくりが大切だと感じました。事例検討を通して、未然防止、再発防止に向けた手立てを考えることができました。日頃の生活の場面で子どもの小さな変化に気付き、見逃さない姿勢を大切にしたいです。立場の違う先生方の意見を聞くことで、生徒指導の視野を広げる良い機会となりました。
- ▶子ども達が学校生活の中で、人との関わり方を学んだり、社会の一員として成長したりできるようになって欲しいと強く感じました。そのために、学校が楽しく、安心できる場所になるような生徒指導を行っていきたいです。また、子どもと接する中で、子どもの良いところに向け、育む指導を大切にしていきたいです。いじめに関しては、状況によって対応は異なっていくと思います。状況に応じて、他の教職員と連携して臨機応変に対応することが大切だと思いました。



いじめ対応の基本的な流れについては、「いじめ対応マニュアル」（兵庫県教育委員会作成）を生かして理解を深めました。

その後、SNSのトラブルに関する事例等を基に、どのような対応をするのかについて協議しました。

「未然防止」、「早期発見」、「子どもへの指導・保護者との連携」、「関係機関との連携」「再発防止・未然防止」等の視点から、どのような対応や手立てが考えられるかについて、多角的に考えることができました。



班別協議では、子どもに寄り添い、児童生徒理解を深め、子どもに関わっていくことの大切さについて、それぞれの校種や立場から考えることができました。